

主婦の友社 健康長寿力アワード

弘大が最高賞受賞

ウェルビーイング 地域モデル構築評価

弘前大学は8日、主婦の友社(東京都)が発行する雑誌「健康」の創刊50周年を記念して今年設けられた「すごい!健康長寿力アワード2024」で、最高賞の「最優秀イノベーション大賞」を受賞したと発表した。同大COIおよびCOI-NEXTを拠点に、健康を基軸とした多種多様な研究活動の推進、産学官民連携によるウェルビーイング(心身、社会的に健やかで幸せな状態)な地域社会モデルを構築したことが評価された。

同誌は健康寿命を延ばすためのさまざまな情報を発信する月刊誌として1976年に創刊。現在は季刊誌として年4回発行されている。

同アワードは、科学的根拠に基づく健康長寿の実践活動や地域資源を生かした持続可能なモデルを掘り起こし、それらを広く発信することを目的に、革新的に健康長寿に取り組む自治体、企業、個人などをたたえるために創設。第1回受賞者には、同大のほか健診

の高受診率などに取り組む山形県を含む自治体5道県が選ばれ、同大が最高賞に輝いた。

同大は弘前市などと共同で実施する大規模な住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」の超多項目な健康ビッグデータを核に、地域経済の発展、QOL(生活の質)向上と健康寿命を延伸する「Well-being戦略担当」は長

年にとりたる地域住民らの協力に深く感謝した上で、「人とまちと未来の健康を目指す『健康都市弘前』の取り組みが着実に成果を上げ、今回の受賞につながった。大変栄誉なこと」と喜び、地域経済の活性化に向けて「さらに力を入れて挑戦していく」とコメントを寄せた。

(稲葉智絵)

同大グローバルWell-being総合研究所副所長、健康未来イノベーション研究機構長を務める村下公一副学長(Well-being戦略担当)は長

年にとりたる地域住民らの協力に深く感謝した上で、「人とまちと未来の健康を目指す『健康都市弘前』の取り組みが着実に成果を上げ、今回の受賞につながった。大変栄誉なこと」と喜び、地域経済の活性化に向けて「さらに力を入れて挑戦していく」とコメントを寄せた。

同大は弘前市などと共同で実施する大規模な住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」の超多項目な健康ビッグデータを核に、地域経済の発展、QOL(生活の質)向上と健康寿命を延伸する「Well-being戦略担当」は長

年にとりたる地域住民らの協力に深く感謝した上で、「人とまちと未来の健康を目指す『健康都市弘前』の取り組みが着実に成果を上げ、今回の受賞につながった。大変栄誉なこと」と喜び、地域経済の活性化に向けて「さらに力を入れて挑戦していく」とコメントを寄せた。

同大は弘前市などと共同で実施する大規模な住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」の超多項目な健康ビッグデータを核に、地域経済の発展、QOL(生活の質)向上と健康寿命を延伸する「Well-being戦略担当」は長

年にとりたる地域住民らの協力に深く感謝した上で、「人とまちと未来の健康を目指す『健康都市弘前』の取り組みが着実に成果を上げ、今回の受賞につながった。大変栄誉なこと」と喜び、地域経済の活性化に向けて「さらに力を入れて挑戦していく」とコメントを寄せた。

(稲葉智絵)